

topics

4/29「大好き市」

「しごと場大好き」(調布市布田3丁目)では、年に一度、地域交流事業「大好き市」を開催。4/29(月・祝)は日ごろの成果を地域の人に見ていただきます。「知って、見て、食べて、楽しい」をテーマにしたミニコンサートとバザーです。だれでも自由に参加できます。入場無料。
10:00~14:30
問 調布を耕す会
☎042-486-1022



ごみリサイクルカレンダー配布

調布市が1年に一度発行する「ごみリサイクルカレンダー」は、連絡会に所属する福祉作業所等のうち、9カ所が配布を請け負っている事業です。2月22日から3月中旬までの約3週間のうちに、市内の全家庭の半数にあたる約6万3000戸に配布しています。
問 調布市福祉作業所等連絡会
☎042-481-3201



掲載商品が買えるショップ開店

スイーツ、パン、バッグ、革製品、陶器など、本誌で紹介する市内の福祉作業所でいいに作られた商品が買える店「若草」が、2012年10月に調布市総合福祉センター1階にオープンしました。ぜひ、立ち寄って。営業日は火・水・金 10:00~16:00。
問 調布市社会福祉協議会
☎042-490-6675



from editor

「わくわく」第1号が2012年11月に完成すると、市内のたくさんの施設やお店が快く設置配布に協力してくださいました。エフエム放送局やケーブルテレビの番組で取り上げていただいたり、NHKの朝のニュースで紹介されたり、街なかで「見ましたよ」と声をかけていただくなど、嬉しい反響が続々。これからも障がい者の生活のことや彼らが生み出すしごとの魅力を少しずつ伝えられたらいいなと思っています。2号目はいかがでしたか。ぜひ、感想をお寄せください。

「体力も精神力も使う大変な仕事だけど、地域の人のためになれていることが実感できていい」とスタッフ。自負心を養うことが自立への大きなステップになります。

お詫びと訂正：第1号で誤りがありました。2ページ掲載のチーズケーキ(希望の家)は市役所売店では販売していません。また、6ページ掲載の「調布市子ども発達支援センター」は正しくは「調布市子ども発達センター」です。お詫びして訂正いたします。

present

「わくわく」ギフトカードを10人に。掲載商品購入やカフェで使えます

「わくわく」で紹介したサービスや商品購入に使える1000円分の「わくわくギフトカード」を抽選で10人にプレゼント。希望者は、はがきに①氏名②〒住所③「わくわく」への感想やリクエスト④「わくわく」の入手方法を明記してご応募ください。■応募先 〒182-0024 調布市布田2-26-8、フラットカズ101 調布市福祉作業所等連絡会「わくわくプレゼント」係
■締め切り 3月31日(日)必着 ■問い合わせ ☎042-481-3201(水・土・日曜休み)
※応募者の個人情報(当選連絡に使用するほか、個人が特定されない形で集計し、今後の事業の参考にいたします。許可なく第三者に公開・提供することはありません。当選発表は、当選者への通知をもって代えます



作業所 file 24

自主性重んじ高い通所率。受託仕事に頼らず仕事を生みだす



NPO法人 エクセルシア くりサイクルショップ 不思議屋

アクセス■
西調布駅から旧甲州街道沿いに調布駅方面に徒歩7分

脊椎小脳変性症という難病にかかった松野健さんが20年勤めた会社を退職し、リハビリに励むなかで、強い信念のもと立ち上げた法人。設立は1994年。それまで健康だった人が、ある日突然身体に障がいをもつ。行政のサポートで復帰への道を教わるが、それを生かす道は自分で切り開かなければならない。その考えから、行政の受託しごとに頼らず、自らの手で仕事を生みだすことを追求してきた。現在はリサイクルショップの運営に携わる利用者が15人。職員は5人。自主性を尊重し、それぞれのペースで店の運営にかかわるように配慮。決して無理強いをしない。それまで通所が続かなかった人が、ここでは長く続くということがある。◆調布市下石原1-5-5 ☎042-489-3754(就労継続支援B型)

作業所 file 23

障がいのある人に、楽しみややりがいを提供



社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 調布市デイセンターまなびや

アクセス■
京王線飛田給駅北口から徒歩12分。子ども発達センター「あゆみ」隣。味の素スタジアムの西側にあり、近くには調布福祉園、知的障害者援護施設「なごみ」「そよかぜ」「すまいる」がある

身体と知的の障がいをあわせ持つ人の通所する施設。活動スタートは1983年。5人の利用者が週に1日、家族付き添いで調布市総合福祉センターに集まり、レクリエーションを行うことから始まった。利用者の増加に伴い、1992年には2つ目の活動場所を開設。2007年には施設を統合・移転し、以後は現在の施設で事業をおこなっている。施設には広い板張りの多目的室や音楽室に、トータルリラクゼーション効果のある感覚室(スノーズレンルーム)を備えている。地域の方々と交流を図るために、毎年9月の第2土曜日に「まなびや秋まつり」を開催。地域活動をする市民とのコラボで音楽ステージや模擬店などをにぎやかに行う。◆調布市西町290-47 ☎042-442-9552(生活介護)

life style

このページでは、障がい者の暮らしの一コマをご紹介します。

重くてツライ図書メールで 地域のためにを実感

調布市には中央図書館のほか、国領、調和、深大寺、神代宮の下緑ヶ丘、富士見、若葉、染地、佐須の分館をあわせて10カ所に図書館があります。利用者は最寄りの図書館でほかの図書館にある本を取り寄せたり、借りた本を別の図書館に返却することが出来ます。人口22万人の調布市では、こうして図書館のあいだを行き来する本は1日数千冊にものぼります。その作業を支えるのが市内6カ所の福祉作業所に通う人たちです。
毎日、午前と午後の2回、福祉作業所の車が1~2台「図書メール」として市内の図書館を巡回します。40~50冊の本で重さ最大20kgになるカート40~50個を届け、同じく40kgの重さを回収します。建物の2階にある図書館で、階段しかないところは、人力で担いで上り下り。相当な重労働です。
「体力も精神力も使う大変な仕事だけど、地域の人のためになれていることが実感できていい」とスタッフ。自負心を養うことが自立への大きなステップになります。



作業所 file 22

精神障がい者に安心した生活を



社会福祉法人 くすのき会 調布くすの木作業所/ シェア/結の里

アクセス■
「調布くすの木作業所」へは調布南口から徒歩約5分。調布市医師会の建物の向かい側。「シェア」へは西調布駅下車、旧甲州街道を調布駅方面に徒歩約8分

精神障がいを持つ人が地域でより安心して自立した生活が送れるように生活支援と就労支援を行う社会福祉法人。調布くすの木作業所ではダイレクトメールなどの封入・封かん作業のほか、公園清掃やメール便を請け負う。利用者は週1日1時間でも通所可能。計数機、丁字機、封かん機などを揃え、封入・封かん作業は1万単位で受注できる。下石原にある「シェア」では公園清掃やメール便のほか、カレーショップ「かれーや」を運営。野菜をじっくり煮込んだカレーが350円で食べられると人気だ。布田駅前では生活介護施設「結の里」を運営する。◆調布市小島町3-72-26 ☎042-486-9129 ◆シェア 調布市下石原1-42-11 ☎042-481-1157 ◆結の里 調布市布田2-51-6、みこしビル地下1階 ☎042-442-2023(就労移行支援・就労継続支援B型)

作業所 file 21

結束力で勝負。3事業所の連携で作業効率アップ



NPO法人 わかばの会 わかば事業所/ わかば第一事業所

アクセス■
わかば第一事業所は国領駅から徒歩5分。わかば事業所就労継続支援事業部は、つつじヶ丘駅から徒歩5分。わかば事業所活動支援事業部は、日活撮影所前バス停から徒歩7分。多摩川自然情報館内

1979年に初代所長の私邸を開放して開所したのがはじまり。現在では、国領とつつじヶ丘の就労継続支援のための施設2カ所に40人と調布市多摩川自然情報館内に比較的重度の障がいのある人の生活介護事業を行う場所に11人、合計3カ所で約50人が通所。年齢幅は18歳~75歳と広く、主に知的障がいや聴覚障がいのある人が一緒に作業。図書館の貸し出し書籍の移動配送を行う「図書メール」や公園などの清掃業務、封入・封かんなどの受託作業を行う。封入は3点封入で1週間に1500をクリア。3事業所が連携し、総合力で作業効率を上げている。職員の現在の課題は営業力強化。雑誌の付録封入の仕事を受注するなど積極的に外に出て、工賃アップのための努力を欠かさない。◆調布市国領町2-18-1、アトラク国領1階 ☎042-484-1360(生活介護・就労継続支援B型)